

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 0790200133 | | |
| 法人名 | 株式会社 ケアネット | | |
| 事業所名 | 会津サービスセンター グループホームあいづ | | |
| 所在地 | 福島県会津若松市門田町工業団地37-1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成26年10月20日 | 評価結果市町村受理日 | 平成27年4月3日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|--------|---|
| 情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php |
|--------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-----------------------------|--|--|
| 評価機関名 | NPO法人福島県シルバーサービス振興会 | | |
| 所在地 | 〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3 | | |
| 訪問調査日 | 平成26年12月11日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人一人の気持ちに寄り添い、「十人十色の幸せ探し」をしながら日々のケアを大事にしている。
 日常生活の中でご利用者様の得意なことを見つけ、生かし、いつまでも元気で楽しく生活できるように援助している。
 家族・地域とのつながりが途切れないように、地域に出向いたり家族との関係性を大事にしながらかわらわりを増やしたりすることに力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1 デイサービス、ショートステイが同一敷地内に併設されその機能を活かし、デイサービスの行事に参加し楽しんだり、避難訓練をショートステイと合同で実施するなど協力体制が築かれている。
 2 家族との交流を密にするため家族会を従来の2回から4回に増やし、事業所への理解や協力が深まるとともに、これまで参加できなかった家族も機会が増えたため参加できるようになっている。
 3 事業所は富士通系列で事業再編で新たに介護部門がスタートし、職員のほとんどが富士通から移ってきたため、業務の連携や改善を協力して行う風土があり、PDCA(計画、実施、評価、改善)サイクルが適切に機能している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 理念は職員全員で作上げたものであり、共有スペース・休憩室等いつも目に入るところへ掲示し理念の実践に努めている。日々、理念に沿った介護ができるよう気を配りながらケアを行っている | 「利用者一人ひとりに寄り添い安らぎのある生活を支援」とする事業所独自の理念を職員で作り共有している。居間や休憩室等事業所内に掲示し実践につなげている。今後、利用者の支援を振り返るとき活かすことでさらに深まる。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域のお祭りや運動会等の行事には出来る範囲で積極的に参加し地域の皆様に支援していただきながら交流を図っている。ボランティアを活用し季節食作りなどを行っている。中学生・高校生の職場体験など受け入れ、事業所を開放している | 地域の運動会、お祭りには利用者と積極的に参加する他、隣りのデイサービスの行事に出掛けたり、市から紹介を受けお化粧品や季節食作りのボランティアを受け入れ交流を深めている。さらに、中学生や高校生の職場体験にも開放している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | ボランティアや見学など、地域の方々が訪問された場合は認知症の理解を深めていただけるようにGHの存在や役割について理解していただけるよう話をしている。市主催の認知症フォーラムに参加し、GHのPRを行った。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている | 定期的開催し、GHの活動内容等を報告し地域の方や包括支援センターと常に情報交換しサービスに反映させている。新しい活動についての意見など、それぞれの立場から意見を伺い、活動に生かしている。 | 運営推進会議は定期的開催され、事業所から活動内容を報告し、避難訓練やデイサービスの新しい取り組みについて協議している。昨年から地区消防団との連携強化が話し合わせ、事業所として検討を進めている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 日常の災害等についても市役所から頂いたり、密にコミュニケーションをとっている。介護保険のことで疑問に思ったことなど相談し、ご協力を頂いている。市主催の認知症フォーラムに参加したり、協力体制を整えている。 | 市の担当者からは、台風などの災害時に情報をいただくなど連携がとられている。市主催のフォーラムに参加し、事業所を紹介する機会が提供されるなど連携体制を維持している。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 職員各自、身体拘束をしないケアの重要性を理解し共通認識を持ってケアを行っている。カンファレンスの際などに、不適切なケアはないか話し合いを持っている。事業所として委員会を開催し、研修などにも積極的に参加し身体拘束についての理解を深めるよう取り組んでいる | 法人の「身体拘束廃止・苦情解決委員会」や研修に参加し職員間で話し合い、職員全員がその重要性を認識し、カンファレンスで細部にわたり確認し合いケアに活かしている。玄関は自動ドアで上部にタッチしないと開かない構造で、施錠にあたるか否か検討する予定である。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 常に自身の行動を振り返って考え、職員間でも意見を出し合いながら日々のケアがご利用者様中心の考えから外れないように注意を払っている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 現在、成年後見人を利用している方はおらず、必要性のあるご利用者様もおりません。必要性が発生した場合には、関係者と相談しながら進めていきます。 (以前、成年後見人を利用していた際には、日常的に連絡を取りながら支援しておりました。) | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居前には、ご利用者・ご家族へ重要事項・契約書の内容を説明し、入所時にも再度説明し、捺印を頂く様にしている。 介護保険の改定時などは重要事項を再度説明し同意いただくようにしている | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会議にご利用者様とご家族に出席していただき意見を頂いている。 ご利用者様については日常的に、ご家族については面会や受診対応時などに意見を伺っている。頂いた要望などは速やかに対応するように心がけている。 | 家族には、面会時や運営推進会議、カンファレンスに出席した際や、通院介助時に意見や要望をいただいている。また、利用者には1対1になる機会や食事の際に伺っている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 定期的にGH会議で問題点を話し合い改善していくようにしている。「食事・記録・業務」の3つに項目を分け、それぞれに担当・リーダーを設け、意見を迅速に反映できるようにしている。 必要に応じ、センター長の面談を行っている | 職員の意見は、三班(食事・記録・業務)のリーダーがまとめ、会議の際に話し合い運営に反映している。また、必要に応じセンター長の面談もあり意見を出しやすくしている。さらに職員の研修、資格取得にも力を入れている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 休暇希望を取り入れた勤務表を作成している。定期的にセンター長の面談があり、仕事・プライベート含めた現在の心境や体調などの話をうかがっている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 内外の研修会の参加出来るようにしている。 外部の研修についてはスキルなどを把握して参加を促し、職員に偏りのないようにしている。 外部研修時は、会議にて研修報告を行い、サービスにフィードバックできるようにしている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | GH連絡協議会に入り、研修会に参加している。 他のGHとの情報交換をすることで、自事業所の現状の確認や新たな目標設定などにもつながっている。GH同士の交換研修も今年度より行う予定である。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前にアセスメントを行い、ご利用者様ならびに家族と良く話し合いをし、ご利用者の要望や状況を理解した上で、入居してからもご利用者様・ご家族と密にコミュニケーションをとり安心できる関係作りに努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | アセスメント時、契約説明時、入所時にご家族の要望や不安を聞き説明を行っている。伺ったご利用者様・ご家族の意向を、ケアに反映できるように努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入所直後は生活環境が変わる為、要望や体調を見ながらケアに努めている。他事業や看護師・PTとも連携をとり、ご利用者様や家族の話を聞いた上でご利用者様が一番必要としている支援を話し合いスムーズに対応できるように努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 一人ひとりの出来ることを活かしたお手伝い等を上手に声かけしながら、継続してできるように支援している。ご利用者様の心に寄り添い共に信頼できる関係を築いている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会や電話等で現在のご利用者様の状況を伝え、コミュニケーションを密にとりながら、家族のきずなを大事にした援助を行っている。面会時には家族水入らずで過ごす時間を大事にしている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 美容室等、ご家族の協力も得ながらこれまでの関係が途切れないようにしている。墓参りや自宅周辺へのドライブも進め、ご利用者様が続けてきた習慣などを大切に支援するように努めている。 | 従来通りご家族の協力を得ながら利用者の希望(美容室)に沿って支援している。自宅近くまでのドライブやお墓参り等職員は努力を惜しまず、受け入れ体制を整えている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | ご利用者様同士の性格や行動を把握し、楽しく生活できるように居間での座席の位置に配慮したり、目配り気配りを行っている。ご利用者様同士が談笑できる場を設けたりして、関係性に配慮している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 契約を終了した方について、退所先での様子をご家族へお伺いしたり、入院先へお見舞いに行ったり、弔問に出向いたりしている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ご利用者様との会話、特に1対1での会話や表情などから気持ちをくみ取り、意向に沿えるように努力している。センター方式によるアセスメント・定期的なカンファレンスによりご利用者様本位の対応を検討している | 利用者の意向が出しやすい入浴やドライブの際に把握し、初めて聞く話は記録に載せ職員間で共有しており、表情が穏やかになり行動が安定するよう心掛けている。家族からも趣味や生活歴を伺うなど本人の思いを把握し活動に活かしている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご家族や面会に来た方には、これまでの生活歴や暮らしぶり、人付き合いなどを伺い把握するようにしている。ご利用者様にも会話の中でこれまでの生活について話を伺い記録に残し、申し送り等で情報共有ができるようにしている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 一人一人のペースに合わせて声かけしながら気持ちよく過ごしていただけるように対応している。ご利用者様の能力を決めつけずに隠れた能力を引き出す努力をしている | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | センター方式を用い、3か月ごとにモニタリング・アセスメントを行い、カンファレンスを開催し、介護計画について、話し合いを行っている。急激な変化があった場合には、その都度カンファレンスを行っている | センター方式を使い24時間シートに記録し、担当が本人の思いや職員の意見も聞きながら現状に即した介護計画原案を作成し、カンファレンスに繋げている。計画は3か月毎、状況変化時は随時見直しをしている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 介護計画に基づき、日々の様子を記録し情報共有をしている。新たなケアの提案についてはカンファレンスを開催し、情報共有とケアの工夫、よりよいケアの実践を迅速に行えるようにしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 受診などはご家族にお願いしているが、急に都合が合わなくなった時などはこちらで対応している。家族の都合による面会時間の延長やお墓参りなど、ご利用者様・ご家族の意向を酌みながら対応している | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|----------------------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域行事等で地域資源の把握や地域の皆様との交流に努めている。ボランティアなども地域資源として活用している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 今までのかかりつけ医を大事にし受診している。ご家族にも状況を把握していただくため、受診対応して頂いているが、その際には書面にて日常のご様子やデータなどをお渡しし、ご家族にも医師にも伝わりやすいようにしている。緊急時や対応が難しい場合はGHでの受診対応を行い適切な医療を受けられるようにしている | 家族の協力でかかりつけ医に受診しているが、必要があれば職員が同行している。家族が遠方の場合や緊急の時は職員が受診の支援をしている。家族が同行する場合は、本人の状況を書面で伝えたり、受診結果は家族から報告を受けるなど、医師、家族、事業所間の連携が取られている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 体調不良やバイタル異常等あった場合には、職場内の看護職に連絡し、その都度対応していただいている。 また、週1回看護職に現状報告・相談し、アドバイスや指示を頂いている | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時には状態をご家族に伺ったり、病院に連絡をしたりして状態を把握するようにしている。必要に応じ、ムンテラ・カンファレンスに同席させて頂いている。 退院時には、再アセスメント行うとともに、医療関係者と連携を図り対応している。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化の指針を作成し、ご家族へ説明を行っている。状態の変化などはご家族へ報告し、今後予見される状況を報告し将来的な方向性も相談している。急変時の希望等をご利用者様・ご家族で話し合ってもらえるようにすすめている。 | 重度化の指針を作成し、利用開始時や状況変化時に事業所としてできる事を説明するとともに将来について相談している。併設事業所に看護師がおりオンコール体制がとられている。看取りについて研修も行われており、職員会議の中で実施するうえでの課題について検討している。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 救命講習やAEDの使用方法を全員が理解し、急変時のマニュアルを作成し、対応方法の確認を行っている。 定期的に救命講習も行っている | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 毎月 夜間想定した避難訓練を行い、避難経路の確認、ご利用者様の誘導など問題点を見出し改善しながら訓練を継続している。その他、事業所全体での避難訓練も定期的に行っている。 また、備蓄品の確保や非常持ち出し袋の準備など行っている。 | 消防署立ち会いも含め毎月併設のショートステイ事業所と合同で夜間を想定した避難訓練を行っている。訓練実施後反省会を行い課題の洗い出しが行われ次回の訓練に活かしている。備蓄もされているが工業団地内に立地しているため地域の協力体制が得られていない。 | 地区消防団や運営推進会議の協力を得るなど取り組みを進めて欲しい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | プライドを傷つけないように配慮し、わかりやすく理解できる言葉を選んで対応している。 その方に合った方言や話し方に努めている。 | トイレで失敗した場合、さりげなく居室に誘導し着替えをしたり、言葉かけもプライドを傷つけないよう注意し、本人が使い慣れた会津弁で話しかけたりしている。写真の掲載は、利用開始時と外部に出す時は再度了解を得ている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | ご利用者様の思いや希望を聞き、気持ちを考えながら、自己決定できるように働きかけている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | その日の気分や体調により柔軟な対応ができるように心がけている。ご利用者様のペースや希望にできるだけ合わせられるように対応している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | ご利用者様の希望に沿って、洋服は選んでもらうようにし、できない方にはその方の好みのものを選ばせて頂くようにしている。メイクアップ教室を開きおしゃれを楽しめる場を作ったり、外出時には化粧をして出かけるようにしたりしている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている | 買い物や調理や後片付けなどはご利用者様にお手伝い頂いている。 食事や旬のものや畑で採れたものを提供し、食事中にも食材や手伝いなどの話題で会話が弾むように気を配り、楽しく食事ができるようにしている | 調理や片づけ、食材の買い出しなど職員と一緒にしている。また、庭の畑で収穫した旬の野菜と一緒に収穫し使うことで食が進む雰囲気作りをしている。職員も一緒に食卓を囲み、献立の内容等話しながら楽しく食事をしている様子が伺えた。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 一人ひとりの好みや状態により食事形態も工夫し提供している。また、管理栄養士にチェックをしていただきバランスのとれた食事を提供できるようにしている。食事量・水分量のチェックをし、好みの飲み物で水分量を確保できるようにしたり工夫をしている | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後の口腔ケアの声かけ・介助を行い、就寝時には義歯の洗浄を行い、口腔内の清潔に努めている。毎食前には口腔体操行い唾液腺の刺激等も行っている。看護職による歯磨き指導なども行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表や介護日誌への記録により一人ひとりの排泄パターンやサインを把握し、それを見逃さずに声かけすることで失敗なく排泄できるように支援している。全介助の方も日中はトイレ誘導行いトイレで排泄できるように支援している。 | 利用者の様子や排泄チェック表を確認しながら個別に声掛けを行うことで、オムツ使用にならず状態を維持できている利用者が多い。自立していない利用者も日中は時間を見計らいトイレ誘導を行い、自立排泄の支援を行っている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排便のチェックを行い、便秘傾向の方には腹部マッサージをしたり、朝の冷たい牛乳提供やヨーグルト・ルイボスティなど多めの水分補給に努めている。それぞれの身体状況に合わせ、センナ茶・整腸剤・下剤などの対応をしている | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | ゆったりと入浴していただけるような雰囲気作りをしてる。ご利用者様の希望やタイミングを見ながら、気分にあわせた対応ができるように心がけている。しょうぶ湯やゆず湯などで季節感も味わって頂いている | 入浴は週3回でカレンダーに入浴日を記載し一緒に準備を行い誘導している。お風呂は円形で身体状況に合わせて両側から入浴が可能で、入る時も上がる時も浮力を活かし楽に介助できるようになっている。またお湯はかけ流しで、季節風呂なども行われゆったり入れる環境となっている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 一人一人の生活習慣を尊重しつつ、昼夜の生活リズムが乱れないように配慮している。日中は体調や気分に合わせてながらレクやお手伝いなど活動的に生活していただき、夜眠れないときはゆっくり話を伺ったり温かい飲み物を提供したり、添い寝したりして安眠できるように援助している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬管理表で、一人ひとりの薬について、把握するようにしている。薬の変更があった場合には、申し送り全員が把握できるようにし、看護師にも報告している。受診時には薬変更後の様子についてきちんと伝え、適切な服薬量となるように努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 一人ひとりの能力や希望に合わせて役割を持っていただき、頼りになる存在になれる場面を作っている。お手伝いカードを活用したお楽しみプレゼントを実施し、楽しみや張り合いを持って頂いている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 買い物に同行していただいたり、レクでドライブに出かけたりと、日常的に外出できる機会を設けている。GHの行事として地域行事に参加したりみんなで外出する以外にも、個人の希望する場所へ一人一人の外出支援を行っている。 | 事業所行事や地域の行事で出かけたり、ドライブに行くほか、近隣の散歩など日常的な外出支援が行われている。また、利用者の希望により個別に買い物などに出かける支援も行っている。さらに家族の協力による外出も行われるなど外出の機会は多くなっている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 現金は、職員で管理をさせていただいているが、買い物や外出時には自分で支払いをさせていただいたりしている。持っていないと不安がある場合は、ご利用者様・ご家族と相談しながら対応している | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 各居室に電話線はない為、希望時に事務所内からかけて頂くようにしている。 必要に応じ、携帯電話を持参される場合もあり、使用方法が分からない場合は援助行っている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居間や台所はなるべく家庭的な雰囲気にし、壁の装飾等で季節感を出したりして、明るくやさしい雰囲気作りに努めている。 廊下には行事写真や書道などを掲示し楽しめるようにしている。 また玄関・浴室・トイレ等は清潔に努め、快適に過ごしていただけるように配慮している | 居間は季節ごと利用者と一緒に壁面に飾りつけ季節の変化を感じたり、行事の写真や書道の作品等を廊下に飾り生活感を出している。温度や湿度も空調で快適に調整され、清潔な環境が保たれている。ソファやテーブル、炬燵コーナーがあり好きな場所で過ごしている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 気の合った方とお話できるようにソファや炬燵を準備し、食事時の座席にも配慮するようにしている。テラスでの夕涼みや日向ぼっこ等も行っている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切に本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている | 布団対応など、今までの生活習慣を大切にしたり、ご家族の写真やなじみの物や衣類など愛用品を持参していただき、その人らしい安心して過ごせるお部屋になるように支援している。仏壇持参の方の中にはお茶やご飯のお供えをする方もいらっしゃる。 日々の清掃により清潔保持に努め、温度湿度にも配慮して心地よく過ごしていただけるようにしている。入口に暖簾をさげ、ご利用者様に合わせたプライベート空間の工夫をしている。 | 居室は広く、トイレや洗面所が設けられ、プライバシーを大切にされた排泄支援ができるようになっている。小物や椅子、仏壇などを持ち込み、家族の写真を飾り居心地良い部屋作りがされている。本人が部屋の整理や掃除をしているが、状況により一緒にすることもある。職員が掃除を手伝った後も、前と同じ配置になるよう留意し、本人が混乱しないようにしている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 手すりを全体的に設置しており、自立を促している。ベット柵はADLに応じ大きさや形を変えて対応している。布団を希望される方は、希望に応じ対応している。入口に大きく名前をつけたり、トイレでの注意書きを個別に記入したり、座席に名前をつけたりしている | | |